基部ヲ廻ツテ毛叢ガアリ、實穎ト同長又ハソレヨリ長イモノモアル。

むつのがりやす又ハひめむつのがりやす等ニ似テ居ルガ、草質ガ一層壯大デ、芒ハ短イナガラモ前二者ニ比シテヨク發達シ、穎質ガ剛强デアル點ナドデ區別ガ出來ル。

次ニ平滑纖細ナモノノ方ハ那須三本槍岳ニ産スルノデ、なすのがりやすト云フ和名ト Calamagrostis Sekimotoi Honda ト云フ學名トヲ與ヘタ。稈ハ直立シテ高サ 30 cm 許リ、葉ト共ニ極メテ纖細且ツ無毛、一見ひめのがりやすヲ思ハセルモノガアル。圓錐花序モ小形、花序軸、枝、小枝、小花梗ノ總テガ平滑、枝ハ花序軸ノ周圍ニ半輪生狀ヲナシテ出ル。小穗花ハ披針形、長サ 4–5 mm 許リ、平滑デ紫色ヲ帶ビテ居ル。虛穎ハ殆ンド同長、銳ク尖リ、共ニ 1 脈デアル。實穎ハ虛穎ニ比シテ稍短ク、脊部ニ申シ譯ノ樣ニ短イ芒ガアリ、注意シナイト見落ス恐レガアル。基部ノ毛叢モ短イ。

ひめのがりやすヤひめむつのがりやすトハ花序軸ヤ枝ガ平滑ナ點デ直グ分ル。みねのがりやすトハ花序ニ於ケル枝ノ數、小穗花ノ色、芒ノ附着點ナドガ異ナル。

日本産かんあふひ類解説（其一）

東京帝國大學理學部植物學教室　前川文夫

Fumio Maekawa: **Japanese Asaraceae (I)**

かんあふひト云ヘバ余リ見映エノシナイモノデ、何時花ガ咲イタノカモ氣ガ付カヌ樣ナモノ、從ツテ今迄ハ割合ニアツサリト葉ガ大キケレバかんあふひ、小サケレバこばのかんあふひト簡單ニ片付ケラレテ居タ樣デアル。コレハソノ生態カラシテ採集者ノ注意ヲ惹カナイ點モアルガ、一面ニハ標本ニシテシマフト特徵ノ一番多イ花ノ部分ガ平タク押シ潰サレテシマツテ、シカモソレガ肉質デアル爲ニ出來上ツタ標本デハ花ノ特徵ガ大變見付ケニクイモノニ成ル爲デ、生品デ特徵ヲ摑ンデカラナラバソウ困難デハナイケレドモ、反對ニ標本カラデハ中々ムヅカシイ。ソレデ結局葉ノ大キサ等デ片付ケラレテシマフノデアラウト思フ。私ハ近頃コノ類ニ興味ヲ持ツテ見テ居ル内ニ、今迄ノ混雜シテ居タ所ガ段々ニ判ツキリシテ來タシ、寫眞モ少々タマツタノデ、本誌ノ余白ヲ借リテ彼等ノ姿ノ一部ヲ並ベテハ簡單ニ說明シテ行キタイト思フ。幸ニ讀者諸賢ノ御參考トモナレバ幸甚デアル。コノ解說ヲ書クニ當ツテ、絕エズ御指導ト御激勵

トヲ賜ハル中井教授ニ篤ク御禮申上ゲマスト共ニ、色々ト御援助ヲ頂イタ兒玉親輔氏、吉永虎馬氏、久內清孝氏、松崎直枝氏、黑川喬雄氏、土井美夫氏、ソノ他ノ方々ニ深謝致シマス。猶未知ノ區域ガ廣ク殘サレテ居マスノデ、厚ツカマシイ次第デスガ、讀者諸賢ノ御援助ヲ御願ヒ申ス次第デアリマス。

(I) **かんあふひ屬 (Heterotropa** Morren et Decaisne)

以前ニハかんあふひモ *Asarum* ノ名ノモトニ呼ンダガ、精檢スルニツレテ該屬トハ全然分カツベキモノデアルトノ結論ニ到達シタノデかんあふひ屬トシテノ最モ古キ名 **Heterotropa** ヲ以テ本屬ヲ呼ブコトニシタ。屬トシテノ區別ハ各論ヲ終ツテカラ述ベタ方ガ判ツキリスルト思フカラ後ニ述ベタイト思フ。

1) **らんえふあふひ**

Heterotropa Blumei (Duchartre) F. Maekawa comb. nov.

Syn. *Asarum Blumei* Duchartre in Alph. de Candolle, Prodr. XV-I: 427 (1864, Maio)-F. Maekawa in Bot. Mag. Tokyo, XLVI: 573 (1932).

Asarum albivenium Regel in Gartenflora, XIII, no. 7-8: 195 t.440 (1864, Augustio) et auct. plur.

Asarum leucodyction Miquel in Ann. Mus. Bot. Lugd.-Batav. II: 135 (1865).

本種ノ特徵ヲ述ベル前ニ、かんあふひノ一般的ノ特徵ヲ述ベテ置イタ方ガ便宜ト思フ。地面ニ接シテ莖ガ橫タハリ、葉ノ落チタ痕デ節クレ立ツテ居ル。每年ソノ先端ニ鱗片葉ヲ1乃至數個、越冬性尋常葉ヲ1乃至3枚出ス。多クハ互ヒノ間隔ガ狹イノデ莖ハ中々長クナラナイガ、成長ト共ニ元ノ方ハ根ヲ出シテ根莖ノ樣ニ見エル。花ハ尋常葉ノ基部ニ生ズルノデ一見腋生ノ樣ダガ、實ハソウデハナクテ、前年ノ葉腋カラ伸ビタ今年ノ莖ノ末端ニ頂生シテ居ルノデアル。ツマリ年々延ビル莖ハソノ年ノ花デソノ主軸ガ止ツテシマツテ次年ノ莖ハソノ花ノ下デ腋生シタ芽ノ伸長シタモノデアル。花ハ花梗ガ短カイノデ地面際ニ橫向キニ咲イテ居ル。花ノ最外側ニ蕚ガアル。筒部ト三裂シタ舷部トカラ成リ普通コノ兩部ノ境界ハハツキリシテ居ル。筒部ノ外側ハ平滑デアルコトガ多ク內面ニハ網狀隆起ガアル。僅カノ種類デハ縱ノ膜ダケシカナイモノモアル。舷部ノ中央部ニハ蕚筒ノ開口ヲ圍ンデ ring ノアルモノトナイモノトアル。花瓣ハ全ク無クテ蕚ガ花瓣ノ樣ナ外觀ヲ呈シテ居ル。ソノ內部ニ12本ノ雄蕊ガアルガコレハ2輪ヲシテ居ルノデ花柱ニ相對スル6本ガ外輪、交互ニアルノガ內輪デ、兩輪ガ互ヒニ少シク形ヲ異ニスルモノガ多イ。ソノ又內側ニアルノガ花柱デ6本、全ク離レ離レニナツテ居ルモノカラ中央部迄互ヒニ融著シタモノマ

デ色々ノ過程ガアリ種類ニヨツテ決ツテ居ル。

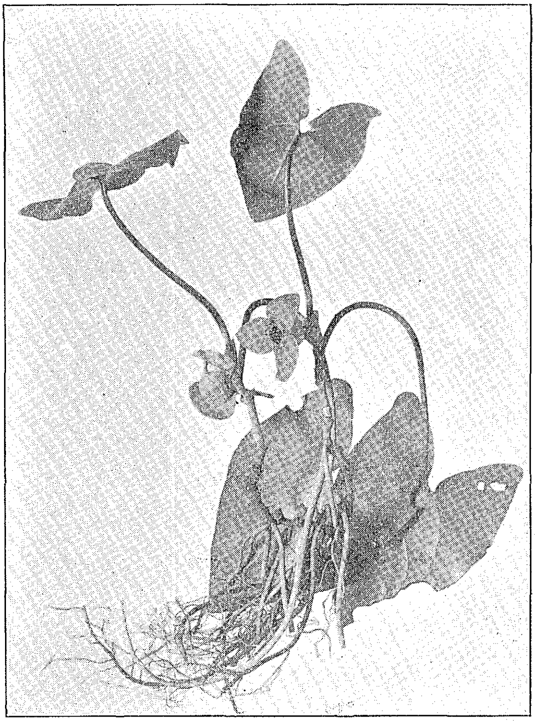

Fig. 1. *Heterotropa Blumei* (×ca. 1/2)
籾山泰一氏ノ相州楪ヶ谷ニテ採集サレシモノ
（昭和七年四月）

サテらんえふあふひノ特徴デアルガ、コレハ三月ノ終リカラ四月ニカケテ、新葉ノ開舒ト共ニ開花スル。第1圖ノ下方ノ2葉ハ冬ヲ凌イダ葉デ上方ノ2枚ガ新シク花ト共ニ出タ葉デアルガコノ寫眞ノモノハ開花後暫ク經ツテ居ルノデ大キクナツテ居ル。圖デモ分ル樣ニ葉ハ毎年1枚ヅツシカ出ナイ。ソノ形ヲ見ルト葉底ノ兩片ノ先ガ外方ニ向ツテ居テ特徴ノアル鉾形ヲシテ居ル事ガ多イ。質モ他ノかんあふひ屬ニ比シテ薄ク表面ニ毛ガ少ナクテ平滑デアル。葉ノ表面ノ模樣ニハ白イ脈ニ地ハ濃綠色ノモノト淡綠色ノ不規則ナ雲狀ノ斑入ノモノト綠色無地ノモノトガアル。かんあふひ屬ノドノ種類デモ同ジ事デアルガコノ葉ノ表面ノ模樣ハ自生地ヘ行ツテ見レバ互ヒニ混生シテ居ル上ニ、種々ノ程度ガアツテ一々區別スル程デハナイト思ハレル。唯個體トシテハ固定シタ性質デ白脈ノモノニ無地ノ葉ガ出タリスル事ハ無イラシイ。又種類ニヨツテ斑入ノ多イモノトカ、白脈ハ滅多ニナイトカノ傾向ハ認メラレル。らんえふあふひデハ學名ノ *albivenium* ノ示ス樣ニ白脈ガ多ク、無地ノモノモ相當ニアルガ斑入ハズツト少ナイ。葉裏ノ脈上ニハルーペデ見レバヨク判ルガ毛ガ散生シテ居ル。毛ナドハ下ラヌモノノ樣ダガ案外ニ區別ニ役立ツ。トイフノハ一二ノ種類ヲ除イテハ決シテ他ノ多クノ種類ニ出現シナイコトヲ知リ得タカラデアル。蕚筒ハ太鼓ノ胴ノ樣デ外側ハ極メテ淡ク綠ヲ帶ビ内面ニハ紫色ノ網狀ノ規

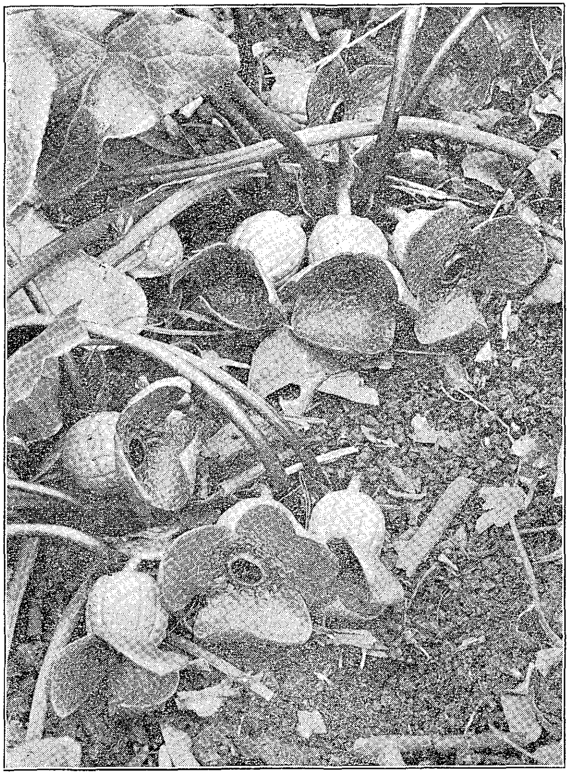

Fig. 2. *Heterotropa Blumei* (×ca. 1)
小石川植物園ニテ栽培ノモノ（昭和八年四月）

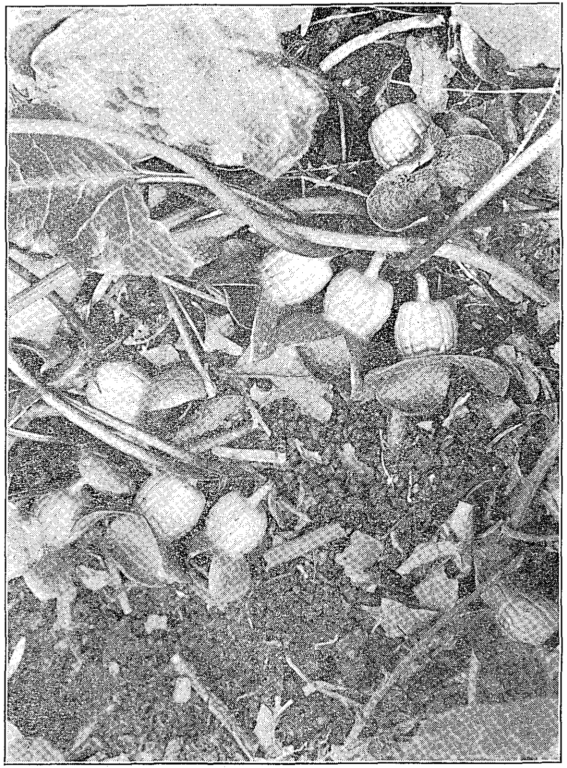

Fig. 3. *Heterotropa Blumsi* (×ca. 2/3)
同上ヲ眞上ヨリ撮リタルモノ（昭和八年四月）

則正シイ隆起ガアツテコレハ外側カラデモ窺ヒ知ルコトガ出來ル。舷部ハ紫褐色トモイフベキ色、水平ニ開キ往々ニシテ裂片ノ先端ハ內方ヘヤヽ曲リ込ンデ居ルコトハ第 2、第 3 兩圖ニ見ル通リデアル。中央部ハ小サナ孔ヲ殘シテ ring 狀ニ筒部ノ入口ヲ蓋シテ居ル。孔ノ周圍ニハイササカノ凹凸ガアルガソノ他ハ極メテ扁平、平滑デ無毛デアル。コノ舷部ハ蕾ノ時ニハ丸クテ、ソノ裂片ノ縫合線ハ特別ノ凹ミヲ持タズ、滑ラカニ球面ヲ走ツテ居ル。

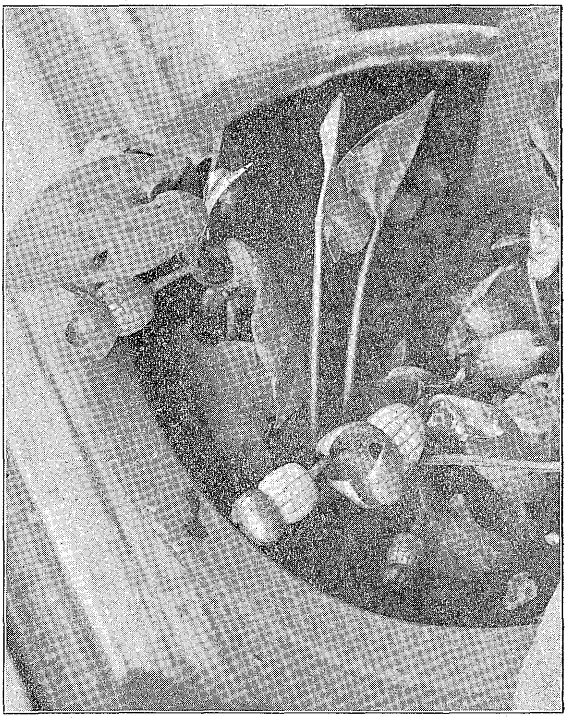

Fig. 4. *Heterotropa Blumei* (×ca. 2/3)
小石川植物園ニテ栽培ノモノ Fig. 2-3 トハ別ノ個體
(昭和七年三月)

子房ハ短イ柱狀デ半バ上位、花柱ハ子房ノ上ニ 6 本分立シテ居テ、各〻ノ先端ノ僅カニ二分シタ邊ノ外側ニ丸イ柱頭ガアル。雄蕊ハコノ蕚筒內ニ突出シタ子房ノ外壁ニ一列ニ輪ヲ作ツテ附着シテ居ル。葯ハ全部外向デアル。コノ雌蕊ノ形ト平ラナ蕚ノ舷部ノ眞ン中ニ可笑シナ程小サナ開孔ヲ持ツタ蕚ノ形式トハ、顯著ナ特徵デ他ノ種類ニハ見ラレヌモノデアツテ、外ノ種類トハ離レタ分類上ノ位置ヲ示シテ居ル。

本種ノ學名ニハ *Asarum Blumei* DUCHARTRE ヲウツシタ **Heterotropa Blumei** F. MAEKAWA ヲ用ヒタ。ソレハ、元來 *Asarum Blumei* ヲ以テ我々ノ呼ンデかんあふひトスルモノニ當テテ來タガ、コレハ露國ノ大植物學者 MAXIMOWICZ 氏ノ意見デアツテ、我々ハコレニ隨ツタノデアツタ。トコロガ、所謂かんあふひ (關東西部山地及南部ノ低山地ニ多產スル種類ニコノ名ヲ留メテ話ヲ進メル) デハ第五圖ニ示ス樣ニ蕚筒ノ上部ニハ些カモ狹窄ヲ有セズ、葉

裏ノ脈上ニハ毛ガ全ク無イシ、又葉ノ形ガ鉾形ヲスルコトハ殆ンドナイ。サテ改メテ Duchartre 氏ノ書イタ原記載ヲ讀ンデ見ルト、コノかんあふひニ符合スル筈ノ記述ガナク、却ツテ蕚筒ニハ狹窄ガアリ、葉ハ鉾形デシカモ裏面ニハ疎ニ毛ガアルトイフらんえふあふひノ特徴ガ述ベテアルノデアル。唯殘念ナコトハ標本ガ唯一本シカ無カツタトイフノデ原著者ガ遠慮シテ花部ノ解剖ヲシナカツタノデ、花部殊ニ雄雌蕊ノ形ニツイテ何等知ルコトガ出來ナイノデアルガ、以上ノ性質カラ云ツテ明ラカニ *Asarum Blumei* ハらんえふあふひト斷定出來ル。コノ學名ノ出版ハ 1864 年 5 月、*Asarum albivenium* ハソノ圖ノ明示スル通リ確カニらんえふあふひデコノ方モ同年ノ出版デアルガ唯少ナクトモ 8 月ヨリ早クハ發表サレテ居ナイコトガ判ルノデ、前者ノ priority ヲ認メテ採用スルニ到ツタ次第デアル。サテカウナツテ見ルト、かんあふひトイフ種類ハ實ハ未記載ノ種類デアツタコトニ成ルノデ、*Asarum nipponicum* F. Maekawa トシテ置イタガコレモ **Heterotropa nipponica** F. Maekawa ト改名スルガ、コレニツイテハ又別ニ述ベル積デアル。

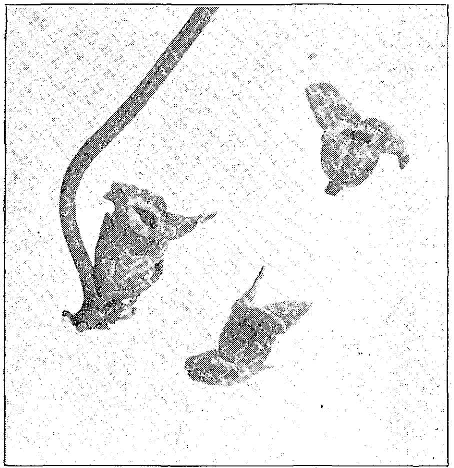

Fig. 5. *Heterotropa nipponica* (×ca. 3/4)
かんあふひノ花（昭和六年十二月）

らんえふあふひハ白脈ノ葉ヲ賞シテ栽培サレテ居ルノヲ見ルガ、夙ニ外國ニ進出シテ居タコトハ Regel 氏ガ日本カラ取リ寄セテ St. Petersburg ノ植物園ニ栽培シタモノデ發表シタコトデモヨク判ル。自生地トシテハ、伊豆ト相模ノ山地ニ限ラレル樣デ、箱根、大山、愛甲郡煤ケ谷、天城山麓、湯河原等ヲ確實ナ產地ニ擧ゲル事ガ出來ル。

2) **たいりんあふひ**（中井博士 1931）

Heterotropa asaroides Morren et Decaisne in Ann. d. Sci. Natur. ser. 2, II: 314, t. 10 (1834)-Graham in Bot. Mag. LXVI, t. 3746 (1840)-W. J. Hooker in Bot. Mag. LXXXII, t. 4933 (1856)-Van Houtte in Flor. d. Serres, XII: 99, t. 1231 (1857)-Klotzsch in Monatsbericht d. Kaiserl. Akad. d. Wissenschaft: 588, t. I f. 2, a-d (1859).

Syn. *Asarum Thunbergii* Al. Braun, 'Ind. Sem. Hort. Berol. Append.: 13 (1861)'-Duchartre in Alph. de Candolle, Prodr. XV-I:427 (1864)-Regel in Gartenflora, XXVII:34, t. 928 (1878).

Asarum asaroides Makino, Bot. Mag. Tokyo XXIV:297 (1910) [nomen tantum]-F. Maekawa in lc. XLVI:579 (1932).

コレハ前者トハズツト緣ノ遠イ一群ノ代表者デアル。記載サレテカラ堂々タル圖版ガイクツモ出版サレタガ、ソノ後不幸ニシテ別ノ種類ガ混ジテ來タノデ、コノ際ソノ特徵ヲハツキリサセテ置イテモイヽト思フ。

本種ハ極メテ大形ノ花ヲ開クモノデ、時ニ直徑 3.5 cm ニモナル。恐ラクかんあふひ屬中デハ世界一カモ知レヌ。開花ハ 5 月カラ 6 月ニカケテデアツテ澤山ニ咲クト一寸偉觀 (?) デアル。色ハ碧ヲ含ンダ紫黑色デ、蕚筒ハ turbinate

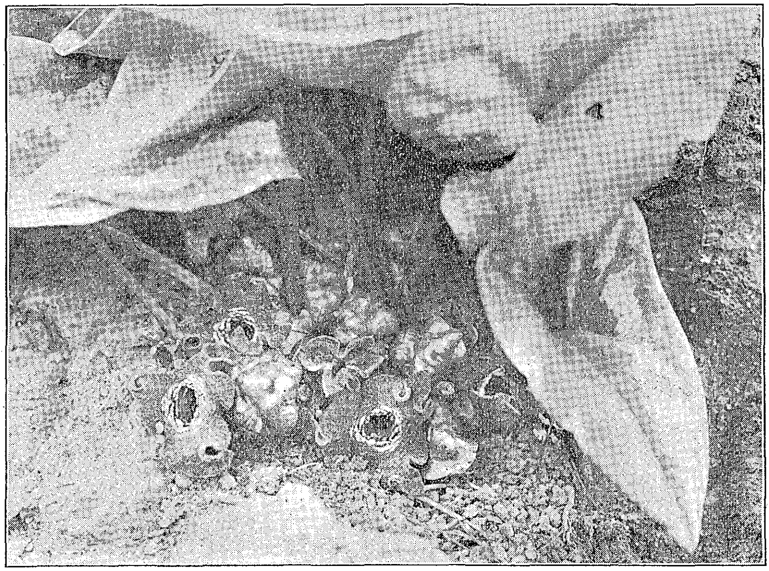

Fig. 6. *Heterotropa asaroides* (×ca. 2/3)
たいりんあふひノ蕾ト花. 小石川植物園ニテ栽培ノモノ（昭和六年五月）

卽チ西洋梨ヲ少シ上下ニ押シ潰シタ樣ナ型デアル。ツマリ中央ヨリヤヽ下方ニ輕イ窄レガアリ上部ニハ急ニ强度ノ狹窄ヲ具ヘルモノデ、內部ニハ網目ノ大キナ網狀隆起ガアツテ、ソノ縱ノ線ハ眞直デアルガ橫線ハ甚ダ不規則デアル。蕚裂片ハ水平ニ開出シ後ニハ上部ガ急ニ外方へ折レ曲ツテ先端ガ筒部ニ接スル樣ニナル（第七圖）。緣ガ大變波狀ニ起伏曲折シテ居ルノハ、蕾ノ時ニ三角ノピラ

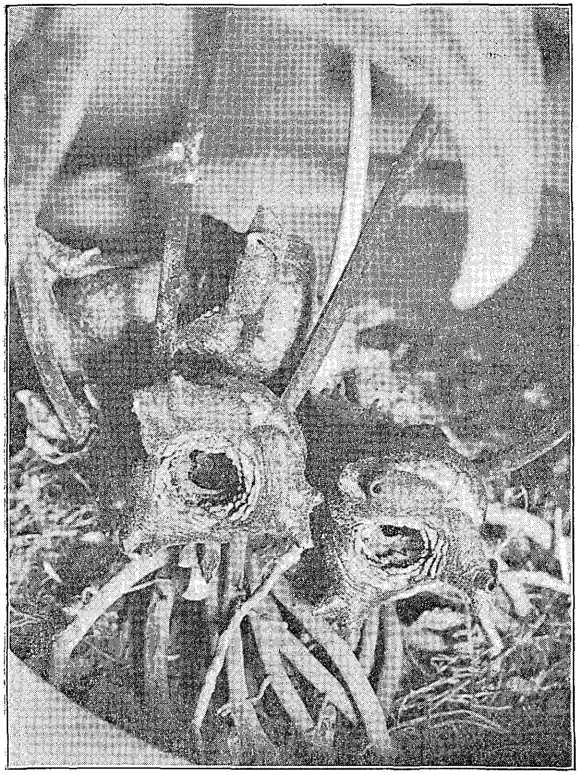

Fig. 7. *Heterotropa asaroides* (×ca. 1.)
たいりんあふひノ開花
東京ニテ栽培ノモノ（昭和七年五月）

ミッド狀ヲ呈スル舷部ノ稜線ニ當ル縫合線ニ一ケ所ヅツ大キナ凹ミガアツタ名殘リデアル。内面ニハ濃紫色ノ短カイ毛茸ガ一面ニ生ジ、基部ニハ筒ノ開口ヲ取卷イテ幾多ノ小サイ板狀突起ガ重リ合ツテ居ルガ、コレハ白色デアルタメニ顯著ニ見エル。更ニソノ内部ニ板狀突起群トハ間隔ヲ置イテ ring ガ有ツテ萼筒ノ開口ヲ扼スルガ同ジ ring デモらんえふあふひデハ、萼裂片カラソノマヽ平ラニ續イテ居タノニ反シテ、本種デハ萼裂片ノ基部ヨリ低ク奧ノ方ニ附クカラ全ク違フ型デアル。サテ萼筒ノ中ニハ雄蕊雌蕊ガアルガコレガ又一風變ツテ居ル。ソレニハ第八及第九兩圖ヲ見テ頂キタイ。コノ兩圖ハ共ニ外國書ニ出タモノヲ轉載シタノデ、第八圖ハ MORREN 及 DECAISNE 兩氏ガ Annales des Sciences naturelles 2-ser. vol. II, p. 314 pl. 10 (1834) デ始メテ本種ヲ *Heterotropa asaroides* ナル新屬新種トシテ發表シタ時ノ圖デ、コレハ本邦ノかんあふひ屬ノ外國デ描カレタ最初ノモノデアラウ。後者ハ大分後レテ W. J. HOOKER 氏ガ Curtis's Botanical Magazine t. 4933 (1856) ニ發表シタモノ、生品カラ描カレタノデヨク特徵ヲ捉ヘテ居ル。雄、雌蕊ハ大體ニ於テ兩圖ノ各部分圖ニ見ル樣ナ形デアル。雄蕊ハ兩型ガ中々顯著デ、外輪（各花柱ト相對立スルモノ）ノモノハ細クテ葯ハ側向、即チ裂開線ガ側面ニアルガ、内輪（花柱ト交互ニアルモノ）デハ幅廣ク葯ハ完全ナ外向

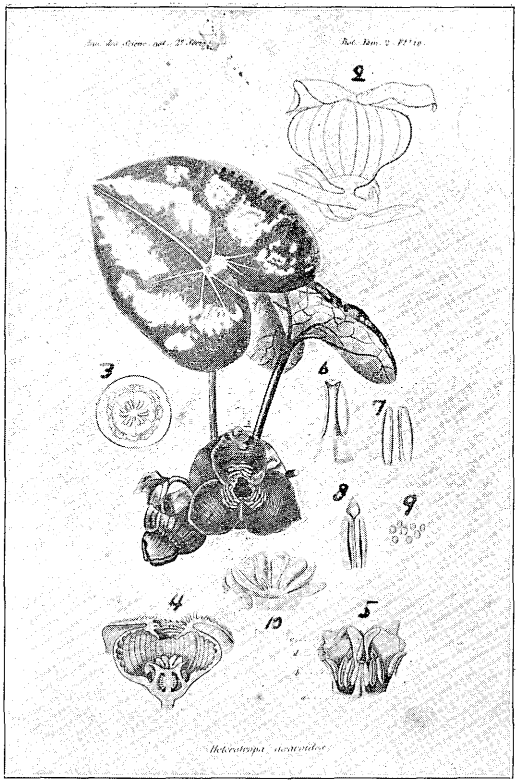

Fig. 8. *Heterotropa asaroides*
Morren 及ビ Decaisne 兩氏ノ最初ニ發表シタ圖（約 1/2 縮寫） 1. 全形 2. 花ノ側面觀 3. 花式圖 4. 花ノ縱斷面 5. 雄蕊及雌蕊 6-7. 外輪雄蕊 8. 內輪雄蕊 9. 花粉 10. 花柱ヲ內面ヨリ見タトコロ.

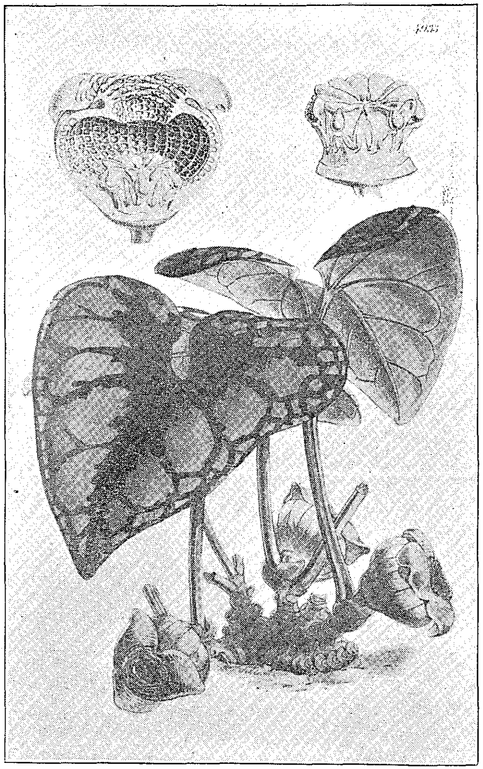

Fig. 9. *Heterotropa asaroides*
W. J. Hooker 氏ノ圖デ原圖ハ著色ガシテアル（約 1/2 縮寫）

デアル。コノ屬デハ葯ハ外向ガ普通デ側向ハ珍ラシイ。Morren 及 Decaisne 兩氏ハコレヲ內向トシテ圖モ描キ（第8圖 6,7）新屬樹立ノ重大ナ特徵ノ一ツト考ヘタガ、實際ニハ側向ト見タ方ガイヽト思ハレル。花柱ハ短カクテ前コヾミニ成ツテ居ルガ、ソノ內面ニ上部程幅ノ廣イ翼狀附屬物ヲ有シ、從ツテ內面カラ見レバ心臟形ニ見エルコト、又外面ノ頂上カラ下ヘカケテ楕圓形ノ柱頭ガ曲玉ナリニ附着シテ居ルコト等モ著シイ特徵デアル（第8圖 5,10及第9圖 2)。

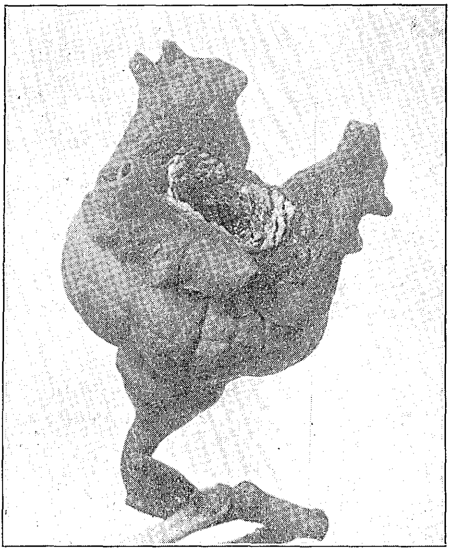

Fig 10. young fruit of *Heterotropa asaroides* (×ca. 1.)
たいりんあふひノ未熟ノ果實
鍋島與市氏ノ筑前寶珠山村デノ採品

果實ハ他ノ同屬ノモノデモ同ジコトデアルガ一見花ト違ハヌ。ツマリ花ノドノ部分モソノマヽ果實ヲ構成スル分子ニナツテシマフノデ、唯子房ガ當然大キクナル事ト萼片ガ厚味ヲ增シテ來ル事等ガ違フ位ダカラ、大變永ク咲イテ居ルト思フト大抵ハモウ實ニナツテ居ル。第十圖ハ若イ果實デ、鍋島與市氏ガ筑前國寶珠山村デ採集シテ送ラレタモノヲ撮シタノデアルガ、御覽ノ通リ子房ガカナリ長クナツテ居ル。熟スレバ、他ノ種ト同樣ニ果實ノ組織ガ粒々ニ分解粉碎シテ、種子ガ地面ニ轉ガリ出ルノデアラウト思ハレルガ本種デハ未ダ實際ヲ見テ居ナイ。

葉ハ大形デ三角形ヲ帶ビタ卵形デ、表面ハ平滑、緣ニ近ク短毛散生シ、普通光澤ガナク、鮮綠色ノ斑入ノモノト全體濃綠色デ白脈ノ入ルモノトガアル。斑入ノモノヲ園藝ノ方デ『吾妻錦』トイフトカ聞イタコトガアル。

邦產中ノ雄品、一般ニ栽培サレテ居ルガ、園藝ノ方デハ『鬼笑（オニワラヒ）』ノ名モアル由ヲ黑川喬雄氏ノ御敎示ヲ得タガ、蓋シ穿チ得タ名デアル。外國ニハ早クカラ渡ツテ居ルガ、1830 年ニカノ Siebold 氏ガ日本カラ送ツタノガソノ最初ダサウデアルガ、餘程アチラノ人達ニハ珍ラシク思ハレタト見エテ色刷ノ繪ガ幾ツモ出版サレテ居ル。

今迄ニ知リ得タ自生地ハ長門ト北九州ダケデ、長門美禰（ミネ）郡東厚保（ヒガシアツボ）村、九州デ

ハ豐前岩嶽、英彥山、筑前朝倉村寶珠山村ノ標本ヲ見タ。Maximowicz 氏ノ九重山デ採集シタモノノ一部ハ恐ラク本種ト見テ間違ヒナイデアラウ。以前ハ *Asarum asaroides* ノ學名ヲ有スルモノヲ呼ンデまるばかんあふひト云ツタガ、コノ和名ハ武州多摩川沿岸ノ丘陵地帶ニ産スル一種ニ最初命ゼラレタモノデアツテ本種トハ全ク別ノ種類デアルカラまるばかんあふひノ名ヲ本種ニ使フワケニハ行カナイ。ソコデ花ノ大型ナノニ因ンデ中井先生ガ命ゼラレタたいりんあふひノ名ヲ使フコトニシタ。　（續ク）

Clematis chinensis Retzius ノ問題

久内清孝

昭和七年八月下旬余ハ朝比奈蕾軒博士ト駿河富士山大宮口ニ於テ同地ノ植物ニ接スルヲ得タノデアルガ、其際余等ハ一合目附近ニ於テ一種ノせんにんさうヲ認メタ其形態花色ハ總テ **Clematis paniculata** Thunb ニ異ラザルモ其儘ニテハ吾人ノ第六感ヲ滿足セシメザリシヲ以テ之ヲ採集シテ檢シタル所下部ノ小葉片ハ殆ンド完全ト云ヒ得ル程度ニ心脚ニシテ上部ノモノハ多クハ狹細ニシテ三脈ヲ有シ各葉片ノ裏面ハ網脈極メテ顯著デアツタマタ花序モ殆ンド無毛デアツテ更ニ之ヲ腊葉トナセシニ萼片及花絲ハ二日ニシテ濃褐紫色ニ變ジ萼片ノ邊緣ニ近ク白色ノ毛茸ガ周匝スルノミナラズ葉片又全ク黑變スルニ至ツタ勿論コノ現象ハ酵素ノ働キニ原因スルノデアルコトハ想像ガ出來ル。

其後余ハ相州大山ニ登ツテ同山中腹以上ニモコノ植物ノ極メテ豐富デアルコトヲ知ツタノデ更ニ同年十一月再ビ登山シテ遂ニ其果實ヲモ得タガ果實ハせんにんさうノ夫レニ似テ居テ之モ腊葉ニシタラ黑變スル性質ヲ發揮シタ然シ全體ノ概見ハ生時ニハせんにんさうニ酷似シテ居ルノデ恐ラク一般ノ同好者ニハせんにんさうト同一視サレテ居ルモノト思ハレル。

然シ之ハ小泉源一博士ガ植物學雜誌第四十四卷第五百十八號ニ **Clematis chinensis** Retzius ニ當テ支那仙人掌ナル和名ヲ與ヘラレタモノニ殆ンド一致スル（然シ和名ハ植物名彙ニしませんにんさうトアルノガ物ヲ云フノデハナイカ）。

同博士ハ海外滯在中目擊サレタ邦産ノ標本ニツキ記サレタ爲 floribus 15 mm latis atropurpurascentibus ト記サレマタ萼ノ邊緣ニツキ magine albo tomentosis ト述ベラレタガ乾品ニ於テハ全ク其通リデアル。コノ乾燥スレバ黑變ス